

	あべのハルカス と四天王寺	(大阪府)	3月7日にグランドオープンした「あべのハルカス」。地上300mで、ビルとしては横浜ランドマークタワー(296m)を抜いて高さ日本一となった。設計基準強度150N/mm <sup>2</sup> の超高強度コンクリートなど最新技術が随所に採用された。四天王寺は推古天皇元年(593年)に聖徳太子により建立された。1400年の時空を超えて新旧の建築物が巡り合った。
	稚内港北防波堤ドーム	(北海道)	昭和11年竣工した。塩害劣化の進行に伴い昭和51年に取り壊しが決まったが、存続を求める市民の働き掛けで昭和55年に復元された。平成13年に第1回北海道遺産に認定されている。(写真提供:稚内市)
	県政記念館 (旧鹿児島県庁本館)	(鹿児島県)	大正14(1925)年に竣工した。鉄筋コンクリート造の3階建て、面積は334m <sup>2</sup> 県庁舎として平成8年まで使われていた。平成12年に改修され、現在地に移設。平成20年に鹿児島県の登録有形文化財に指定された。
	川河口水門	(岡山県)	水門増築事業として平成27(2015)年に竣工した。耐震性や景観性などを考慮して、ライジングセクターゲート(ゲートを回転して開閉する構造)を採用した。
	萬翠荘	(愛媛県)	大正11年に建てられたフランス洋館。現存する愛媛県内の鉄筋コンクリート造建築物としては2番目に古いとされている。地上3階、地下1階、総面積268坪で国の重要文化財に指定されている。
	青森ウォーター フロントエリア	(青森県)	正三角形が印象的な「アスパム」は高さ76mと青森県内で最も高建物。「青森ベイブリッジ」は橋長1,219mで、主塔には高強度コンクリートが使われた。夜間はライトアップされている。
	タウシュベツ川橋梁	(北海道)	タウシュベツ川橋梁は、十勝北部の上士幌町のダム湖で限られた季節に出現することから、幻の橋といわれている。北海道遺産に選定された「旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群」の一つで、建設から80年以上、ダム湖に沈んでから65年近く経つ。
	栗山配水塔	(千葉県)	千葉県企業局「栗山配水塔」は、千葉市、松戸市などを給水区域に1934年にスタートした県営水道の要として、1937年に竣工した。鉄筋コンクリート造で高さは31.9m。土木学会選奨土木遺産、国の登録有形文化財に指定されている。
	旧魚梁瀬森林鉄道二股橋	(高知県)	1940年に竣工した、橋長47mの日本最大級の無筋コンクリート橋。戦時だったため、鉄材の使用が制限されていたことが背景にある。コンクリート技術史で高い価値があるとして国の重要文化財に指定されている。
	美濃橋	(岐阜県)	大正5年に建設された。現存するつり橋としては国内最古。平成15年に重要文化財に指定された。鶺鴒いなどで有名な長良川に架けられており、主塔は鉄筋コンクリート造で、橋長113m、支間長116m、幅員3.1m
	殿山ダム	(和歌山県)	1957年に完成したアーチ式コンクリートダム。堤頂長128.92m、最大厚さ12.408m、3心アーチを取り入れた高さ64,500mの二重の曲率を持つ。コンクリートの品質確保のため、特別教育を受講した「コンクリートインスペクター」が打設管理を行った。
	文翔館	(山形県)	山形県庁舎、県会議事堂として1916年に竣工した。ルネッサンス風を基調とした建物で、建設費は当時の県予算の25%に達した。重厚な外観、気品あふれる調度品の数々が人々を魅了する。創建時に設置された機械式大時計は今も現役。国の重要文化財に指定されている。
	中島閘門	(富山県)	富山都市開発事業の一環として昭和9年に竣工した。正式名称は富岩運河水門施設で、神通川河口右岸の富山港を起点とする総延長約5.1Kmの富岩運河のほぼ中間に造られた。平成10年に昭和初期の土木構造物としては全国で初めて重要文化財に指定された。
	角島大橋	(山口県)	山口県の北西端に浮かぶ角島と本土を結ぶ離島架橋。平成12年に完成した。景観の素晴らしさから「一度は行ってみたい橋」といわれ、映画などのロケ地にも採用されている。平成15年度には土木学会デザイン賞を受賞している。
	神奈川県庁本庁舎	(神奈川県)	4代目本庁舎として1928(昭和3)年10月に竣工した。先代が関東大震災で焼失したことを受け、耐震・耐火性に優れた鉄筋鉄骨コンクリート構造が採用された。中央の塔の高さは48.6メートル。昭和初期に外国人船員がトランプを見立てて呼んだとされる「キング」の愛称で県民から親しまれている。
	大宜味村役場旧庁舎	(沖縄県)	大正14(1925)年に竣工した現存する沖縄県最古のRC(鉄筋コンクリート)建造物。大正9年に建築技官として赴任し、沖縄県でのRC造の普及に尽力した清浦勉氏(1894~1985)が設計、施工、現場管理を指揮した。平成29年には国指定重要文化財に指定されている。
	安乗埼灯台	(三重県)	志摩半島東端の断崖で船の安全な航海を見守る。江戸時代に設置された燈明台が前身で、総ケヤキ造りの初代の灯台が明治6年に建設された。安乗埼灯台は2代目で、全国でも数少ない参観灯台のひとつ。海上保安庁の灯台50選にも選ばれ、空気が澄んだ日は富士山も望むことができる。
	大手橋	(茨城県)	昭和10年に鉄筋コンクリート造の橋として架け替えられた。藩政時代の様式に戻しつつ、耐久性も考慮して鉄筋コンクリートが採用された。平成22年に土木学会選奨土木遺産に認定されている。
	デンカビッグスワン スタジアム	(新潟県)	2001年3月に完成した収容人数4万人を超える大型スタジアム。骨鉄筋コンクリート造の地上5階建てで、スタンドは2層式。日韓共催で2002年に開かれたサッカーワールドカップの試合会場になった。2014年にデンカがネーミングライツを取得。